☺「福岡市　子どもと本の日」通信　Ｎｏ．１５４　　平成３０年１月２３日

❀　毎月２３日は「福岡市 子どもと本の日」です　❀

～　子どもの読書活動を推進しましょう　～

□　第１３回　福岡市子ども読書フォーラムの報告です

１２月２日（土）は，南区のアミカスを会場に，「福岡市子ども読書フォーラム」を開催しました。このフォーラムは，各方面で読書活動に携わる市内８つの団体の企画・運営により実施しています。

今年も天候に恵まれ，当日は，延べ２，５１５名の来場者をお迎えしました。どの団体のブースからも，子どもと大人，双方の笑顔や歓声が見聞きされました。また，ほとんどのブースに絵本や本が置いてあったため，来場者が自然に本を手に取り，読んでいる姿が多くありました。

盛会だった当日の様子を報告します。

福岡市中学校図書館教育研究会(「本の世界へようこそ！」)

福岡市立の中学校は，「読み聞かせコーナー」と「展示・工作コーナー」を担当しました。

「読み聞かせコーナー」は，野間，博多，宮竹，香椎第一，長丘の各中学校の生徒たちが担当しました。「きらきら」「ぐりとぐらのおきゃくさま」などの絵本の読み聞かせをしたり，読み聞かせをする絵本を展示したりしました。

「展示・工作コーナー」は，元岡，高宮，箱崎，宮竹，博多の各中学校の生徒たちが担当をしました。ＰＯＰ（本の宣伝，魅力の紹介）や季節の掲示だけでなく，来場者にＰＯＰやしおりなどの作り方を教えました。

（読み聞かせをする中学生）

（工作をする子どもたちと教える中学生）

（しおりづくりに熱中する大人）

福岡市立高等学校図書館教育研究会（「高校図書館ってどんなとこ？」）

福岡市立の高校は，「おはなし編」と「わくわく編」の企画別に２部屋で行いました。

「おはなし編」では，「おはなしメドレー」を福岡女子高校が，音楽劇「さるかに合戦」を博多工業高校が行いました。

「おはなしメドレー」では，読み聞かせをしたり，「赤ずきん」の指人形をしたりし

ました。指人形は生徒自身の手作りでした。指人形のすばらしい出来栄えや指人形の動きを見て，小さな男の子が立ち上がって演じている指人形の方に近づいていきました。

「さるかに合戦」では，台本から衣装まで自分たちで作成していました。また，見ている人も参加する場面があり，工夫した演出でした。両校とも，会場に入りきれないくらいの来場者でした。演技後は，来場者から多くの拍手がありました。

（「赤ずきん」の指人形に近づく男の子）

（パネルシアターで表現力豊かに演じる福岡女子高生）

（「さるかに合戦」で熱演する博多工業高生）

（来場者も，高校生と一緒に劇に参加）

「わくわく編」では，博多工業・福岡女子・福岡西陵・福翔の４校が学校紹介，学校図書館，「ヤングアダルトブックセレクト１００」などを展示しました。また，読み聞かせや工作コーナーでは，小さい子どもから大人まで，楽しんでいました。

（学校紹介などの展示）

（[ヤングアダルトブックセレクト１００]の展示）

（工作に一生懸命取組む子どもと高校生）

※ヤングアダルトブックセレクト１００：福岡市立高校の学校司書の先生が，中学生・高校生に読んでほしい本を選んだ１００冊の本

福岡市立小学校図書館教育研究委員会（「小学校図書館においでよ！」）

このブースでは，市内の小学校で読書月間や読書週間で取り組んだＰＯＰなどの展示，しおりコンテストやペープサート体験を実施していました。子どもたちは，小学校の先生が本を読むのにあわせてペープサートを動かすことができて，とても楽しそうでした。

（ペープサートを動かす子どもたち）

（ＰＯＰを熱心に見る来場者）

（本に掲載されているおもちゃの展示）

※ペープサート：話の登場人物などを紙で作り，それを割りばし状の棒につけ，話の展開にあわせて動かす紙人形劇

福岡おはなしの会（「図書館のおはなし会がやってきた！」）

図書館でおはなし会をしている皆さんが，「小さい子のおはなし会」「大きい子のおはなし会」「わらべうたであそぼう」「としょかんのおはなし会がはじまるよ！」を担当しました。

おはなし会では，場面や登場人物に応じて，声の調子などを変えての本の読みに，子どもたちは，すっかり話に夢中でした。また，「わらべうたであそぼう」は，子どもだけでなく，そばの大人の方もとても楽しそうでした。

（わらべうたにあわせて，子どもをくすぐる母親）

（軽いスカーフを使ってあそんだ「わらべうた」であそぼう）

（小さい子も大きい子もしっかり聞いた読み聞かせ）

ブックスタートボランティア（おうちのひとのおひざにのって赤ちゃんおはなし会）

市内の各区で読み聞かせをしているボランティアの方々が，区ごとに時間を決めて担当しました。参加している子どもたちが，比較的に小さいので，読み聞かせだけでなく手あそびをするなど，子どもたちがあきないように工夫していました。また，ボランティアの団体によっては，同じ色のエプロンを着用して，楽しい読み聞かせの雰囲気づくりをしていました。

（まわりの大人も手遊び）

（黄色いエプロンを着用し読み聞かせの雰囲気づくり）

（絵本の絵をしっかり見せている読み聞かせ）

（わが子を抱っこして参加している大人）

福岡市学校図書館よみきかせボランティアネットワーク（「お茶でほっとな交流を♪」）

市内の学校図書館で読み聞かせのボランティアをしている方々が，コーヒーやお茶を振る舞うブースを設けました。また，自宅や学校で読みたい絵本や本を美しく展示していました。展示してある絵本を手に取ってみたり，子どもに読み聞かせをしたりしている姿も見られました。一息つける空間でした。

（お茶を飲んだり，本を読んだりできる中央のテーブル，本が展示してある端のテーブル）

（中央のテーブルでお茶を飲みながら，絵本や読み聞かせなどについて情報交換）

（「おうちでたのしむ絵本と本」「よみきかせ講座で紹介した絵本と本」で展示されている絵本を読む女の子）

福岡市総合図書館・各分館（「図書館を楽しもう！」）

福岡市総合図書館・各分館の司書の人たちが，展示だけでなく「お父さんによるおはなし会」「ビブリオバトル」などをしました。また，ＰＯＰや「１００冊の絵本」の展示など，来場者がいつ来ても楽しめるような企画をしていました。「なりきり絵本キャラ」「なりきり図書館員」は，小さい子どもから若い女の人まで，大人気でした。

（かみしばいや読み聞かせをするお父さんたち）

（「１００冊の絵本」を読む女の子）

（魔女ときつねになって写真撮影する「なりきり絵本キャラ」）

公民館の文庫活動の紹介

（２階のギャラリーに展示された公民館の文庫活動）

冷泉・鳥飼・香陵・原・当仁・西都の６公民館の文庫活動を紹介しました。

どの公民館も，スタンバード文庫を読み聞かせや親子のふれあいに上手に使っていました。

福岡県書店商業組合（本屋さんがやってきた！）

（親子で本選び）

（展示されているたくさんの本）

書店商業組合の方が、読み聞かせや読んでほしい本などたくさん展示していました。親子で本を選び、買い求めてすぐに読み始める子どももいました。

来場者に人気の２つの催し

その１《子どもたちに大人気のスタンバード》

（スタンバードと楽しいふれあい）

（集まった子どもたち）

教育委員会のキャラクター「スタンバード」は子どもたちに大変人気でした。「スタンバード」の姿が見えると，子どもたちが集まってきて，体に触ったり握手をしたりしていました。

その２《楽しみなおみやげ》

（お土産をもらう子どもたち）

５つのブースを回ってスタンプをもらった人に，書店組合や生涯学習課が準備したおみやげをもらいました。

２月生まれの文学者たち

東野圭吾（ひがしの　けいご）と「容疑者Ｘの献身」

１９５８年２月４日　大阪市生野区生まれ

小・中学校の時の東野氏は，読書少年ではありませんでした。高校の２年生の時，「アルキメデスは手を汚さない」を偶然読み，推理小説に熱中するようになり，やがて，自分でも推理小説を書き始めました。大阪府立大学電気工学科卒業後，１９８１年からデンソーでエンジニアとして勤務しながら推理小説を書いていました。

１９８５年刊行の「放課後」で江戸川乱歩賞を受賞した翌年退職し，専業作家になりましたが，ヒット作に恵まれずにいました。１９９８年刊行の「秘密」は日本推理作家協会賞を受賞し，映画・ドラマ化され，東野氏は一気に有名になりました。

「容疑者Ｘの献身」では，直木賞・本格ミステリ大賞を受賞しました。この作品の主人公が数学者という設定だったため，東野氏自身大学時代に専門的な数学を学んでいましたが，数学者に会うなどの下調べをして書き上げました。東野氏は，「自分はミステリーを考えるのが苦手で，作品のトリックは，考えて考え抜いてもトリックが出てこなく，ある朝，ぼんやりトリックが浮かび上がる。」と，言っています。

１９９６年刊行の「白夜行」や「浪花少年探偵団」シリーズの舞台となっているのは，東野氏が生まれた大阪市生野区です。東野氏の作品には，自分自身の体験が幅広く取り入れられています。

東野氏は，数多くの作品賞を受賞するとともに，「麒麟の翼」「真夏の方程式」をはじめ，多くの作品が映画化されたり，テレビで放送されたりしている人気作家です。

矢玉四郎（やだま　しろう）と「はれときどきぶた」

１９４４年２月３日　大分県別府市生まれ

矢玉氏は，小学生の時，人づきあいが苦手で，学校の授業では，答えが分かっていても手を挙げて発表できない子どもでした。千葉大学工学部工業意匠学科卒業後、商業デザイナーとして働きながら漫画を描いていましが，後に，漫画家として独立しました。そして，週刊少年マガジンなどにナンセンス漫画を発表していました。その後，児童文学に転向し「おしいれの中のみこたん」を刊行しました。

１９８０年刊行の「はれときどきぶた」は，小学校３年生の主人公の畠山則安が未来の日付で日記に書いた荒唐無稽なことが現実になってしまうという話です。発表後すぐに，ヒットとなり，１９９７年７月から１９９８年９月まで，テレビアニメで放送されました。また，英語や中国語，タイ語などに翻訳され，さまざまな反響を呼び，矢玉氏の代表作のみならず現代を代表する児童文学作品ともなりました。

矢玉氏は，「おとなになっても自分で考えることができるように，子どものうちからいろんなことを考えることのできる頭をつくっておくことだ。」と考え，児童書や絵本などを精力的に発表し，荒唐無稽な世界で子どもたちの想像力を刺激し続けています。矢玉氏の作品は，「あしたぶたじかん」「ぼくときどきぶた」など，多数あります。

♪　福岡アジア美術館「２月の案内」　＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

＊アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせ

１１日（日），１３日（火），２５日（日），２７日（火）

・**時　間：**１１:３０～１２：００　　１３：００～１３：３０

・**場　所：**７階「キッズコーナー」（申し込み不要）

♪　福岡市総合図書館「２月の案内」　＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

＊毎月のお話し会

３日（土），　４日（日），１０日（土），１１日（日），１７日（土）

１８日（日），２４日（土），２５日（日）

・**時　間：**土曜：１４：３０～（幼児向け～小学生向け）

日曜：１４：３０～（幼児向け），１５：１５～（小学生向け）

・**場　所：**「こども図書館　おはなしの家」

□　図　書　館　員　の　ひ　み　つ　の　本　棚　《 No.１４１ 》

福岡市総合図書館 読書相談員の重村さやかさんが，毎月素敵な本を紹介してくださる楽しみなコーナーです。

今回の本は，有名な昔話です。教科書にも掲載されたことがある昔話ですので，大人の方にも，この話を知っておられる方も多いと思います。ほのぼのとした話なので，心が温かくなります。この絵本から子どもたちに，雪国での暮らしの様子や大人の方がまだ小さかったころの様子など子どもたちにいろいろ話をすることができそうです。読み聞かせするのに，よい一冊だと思います。

❀ 今月の本

『かさじぞう』

瀬田　貞二／再話　赤羽　末吉／画　福音館書店　１９６６年　９７２円

♪ あとがき　＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

今は，一年のうちで一番寒い時期です。また，降雪などのため運動場がぬかるみ外で遊べない日も多くなります。このような日には，図書館に行って本を読む絶好の機会です。

東野圭吾氏は，「容疑者Ｘの献身」をはじめ，映画化やテレビで放映された作品が実に多い作家だということが改めて分かりました。また，今年１月に映画で公開される東野氏の作品「祈りの幕が下りる時」は，２０１４年に吉川英治文学賞を受賞しています。映画で公開される作品を紹介することでも，子どもたちの本への関心を高めることができるのではと思います。

この通信ではできるだけ色々な学校の読書活動例を紹介したいと思っています。

発　行：　福岡市教育委員会　生涯学習課
電　話：　７１１－４６５５　　ＦＡＸ：　７３３－５５３８

図書館員のひみつの本棚　第１４１回

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします。

『かさじぞう』

瀬田　貞二／再話　赤羽　末吉／画　福音館書店　１９６６年　９７２円

＜お勧め年齢＞

乳幼児☆☆☆　低学年☆☆☆　中学年☆☆　　高学年☆　　中学生――

高　校――　　一　般――

（☆が多い年齢の子どもにお勧めです。）

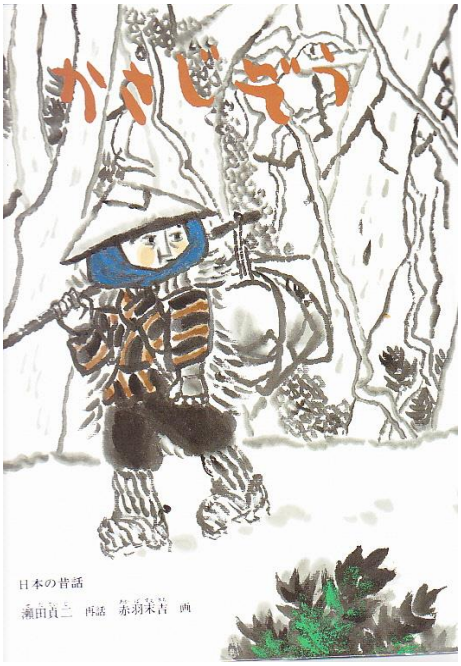
〈本の紹介〉

有名な日本の昔話の絵本です。

大晦日にお餅を買うお金を稼ごうと、笠を売りに出た貧乏なおじいさんでしたが、笠は一つも売れませんでした。おじいさんは、帰り道に吹雪にさらされているお地蔵様を見つけ、売り物の笠をかぶせてあげますが一つ足りません。そこで自分がかぶっている笠をお地蔵様にかぶせて家に帰ったおじいさん。おばあさんと粗末な夕食で年越しをしますが、元旦の明け方に、笠をかぶったお地蔵様たちが、正月のご馳走や宝物をおじいさんの家に届けてくれます。

〈子どもに手渡す時のポイント〉

シンプルなストーリーと、しっかりとした語り口は耳に心地よく、幅広い年齢の子どもが楽しめます。藍色の地に扇形に描かれた絵が、物語の雰囲気をよく伝えてくれます。聞き終わるとほっこりとした気持ちになる絵本です。ぜひ、読み聞かせでも読んでみてください。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。